

東京電力株式会社 東東京変電所納
第4号器 300,000 kVA 変圧器据付完了

日立製作所は、すでに完成している東京電力株式会社 東東京変電所納4号器 300,000 kVA 変圧器を現地に納入し、このほど据付を完了した。

本変圧器は負荷時タップ切換装置を内蔵しているのが大きな特長で、主変圧器と電圧調整器をあわせた機能をもっている。

また、本器はタップ巻線を主巻線と同心状に配置して各タップにおける不平衡をなくし、短絡時の機械力を低減するとともに、タップ電圧によるインピーダンス変化や損失を最小にすることができた。そのほか、騒音に対しても鉄心構造の改善、外箱の合理的設計などにより好結果を得ている。

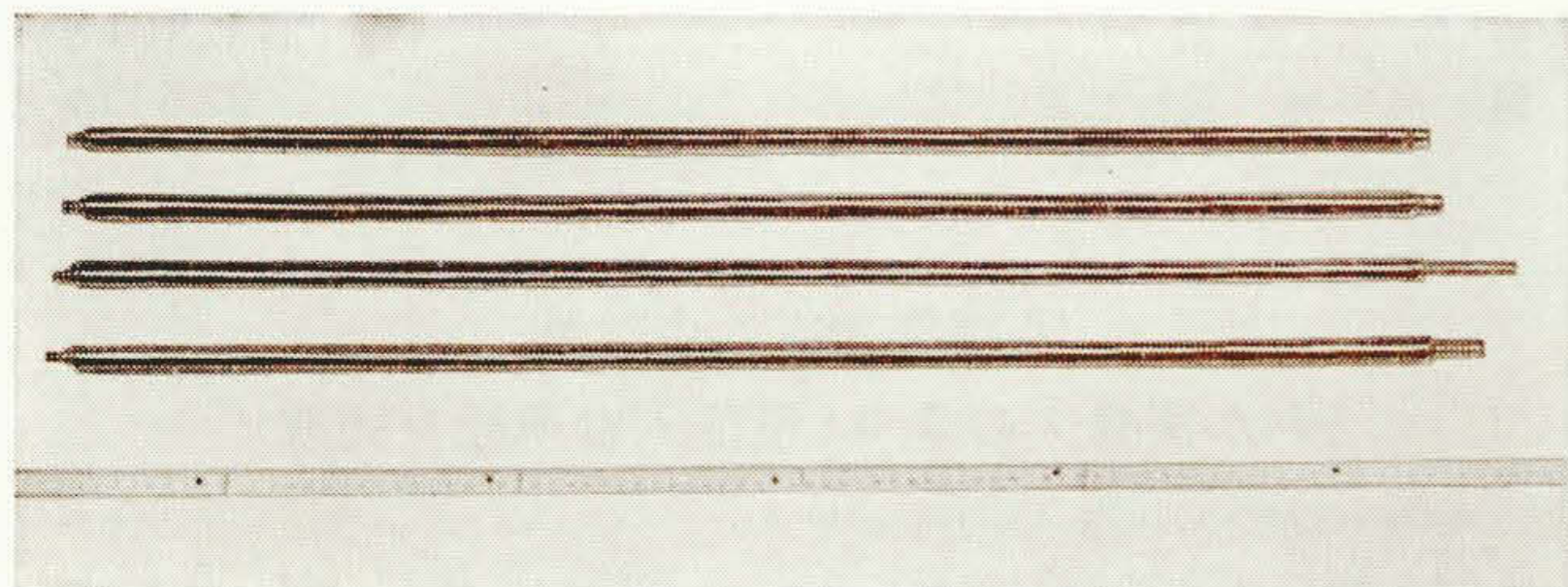
おもな仕様

形	式	送油風冷、負荷時タップ切換装置内蔵形、三相、5脚鉄心、制振しゃへい、窒素封入形コンサベータ付
容	量...一 次.....	300 MVA
	二 次.....	300 MVA
	三 次.....	90 MVA
電	圧...一 次.....	275 kV± 10.3% (23タップ付)
	二 次.....	147 kV
	三 次.....	63 kV
サイ	クル.....	50 c/s

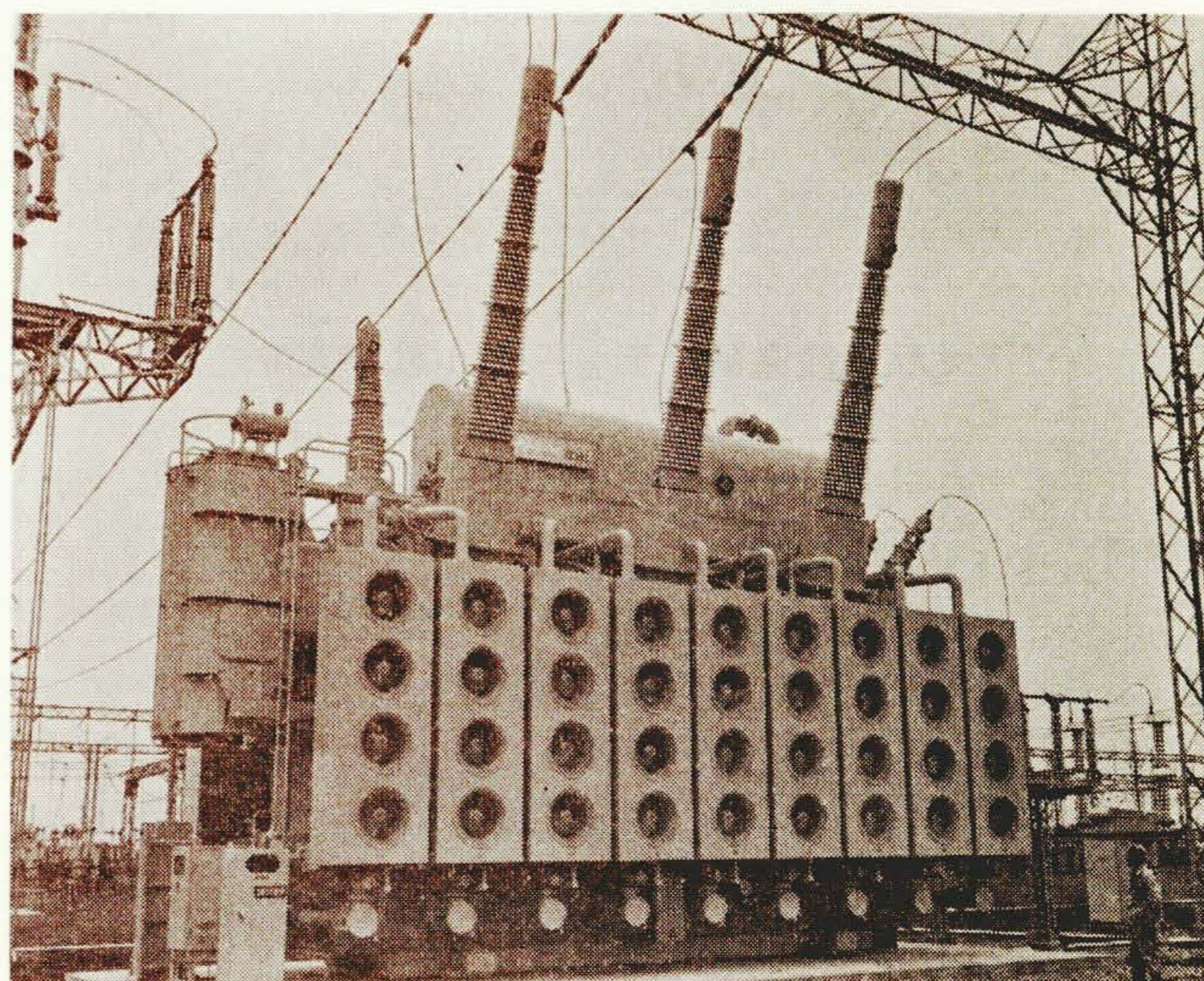
日本原子力研究所納
沸騰水形動力炉用燃料棒完成

日立製作所では、日本原子力研究所納 JPDR (Japan Power Demonstration Reactor) 用燃料棒を完成し、このほど全数無事納入した。

沸騰水形動力炉用燃料棒としては、国産初の製品であり、その製作(濃縮ウランなどからの成形加工)には高度な技術が要求されていたものである。燃料は2.6%濃縮二酸化ウラン直径12.5mmのペレットを内径12.62mm、肉厚0.76mm、長さ約850mmのZR-2(ジルコニウム)被覆管で被覆したもので、二度にわたる日本原子力研究所の立会検査を好成績のうちに合格し、このたびの納入となった。今回納入した燃料棒は、32本で日本原子力研究所で燃料体に組み立てられ、実負荷の状態での確性試験される。



第2図 日本原子力研究所納沸騰水形動力炉用燃料棒



第1図 東京電力株式会社 東東京変電所納
300,000 kVA 変圧器

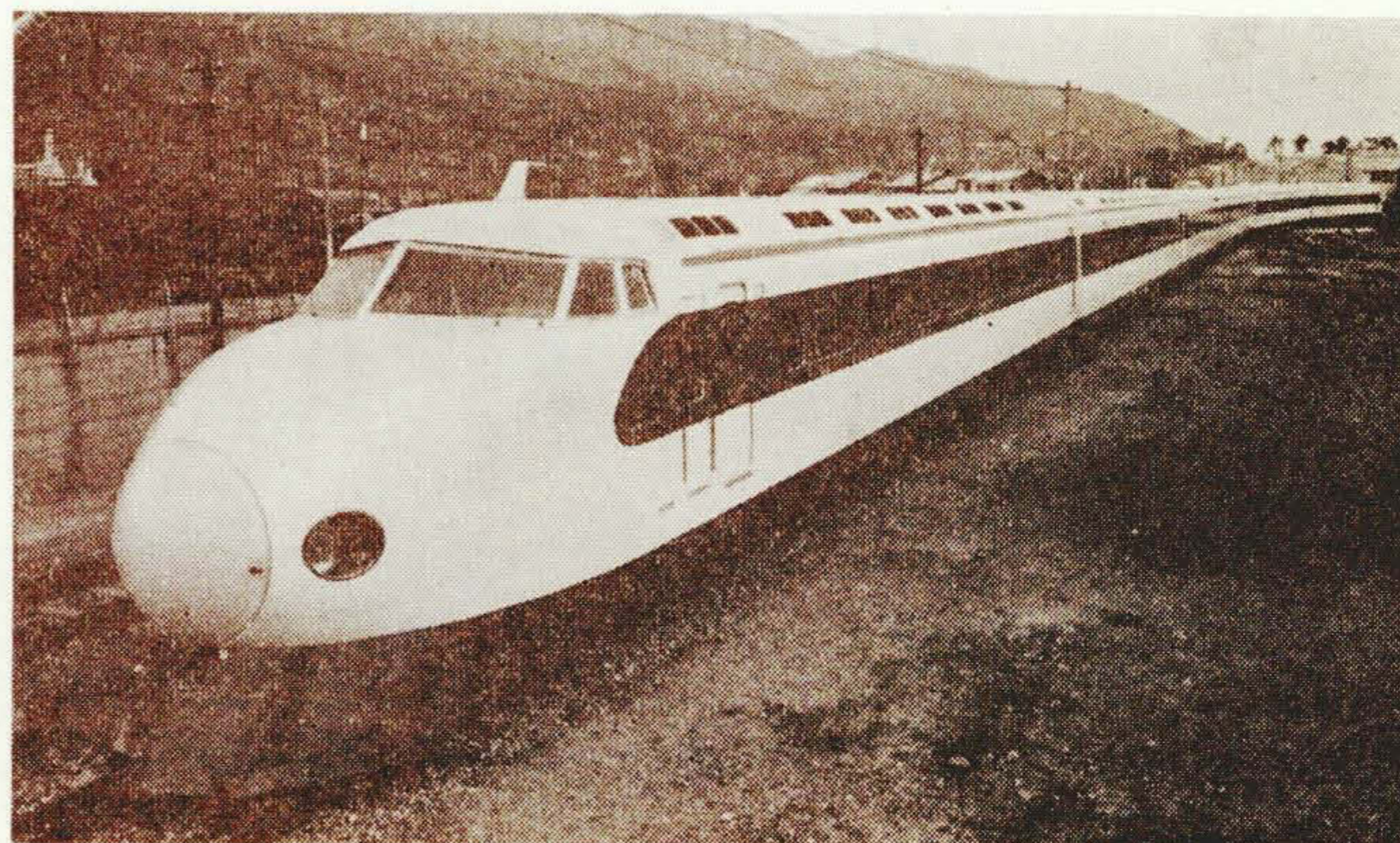
日本国有鉄道納
東海道新幹線用交流電車(第3次)完成

日本国有鉄道からの追加発注で製作中の、東海道新幹線用超特急2編成24両がこのほど日立製作所において完成した。

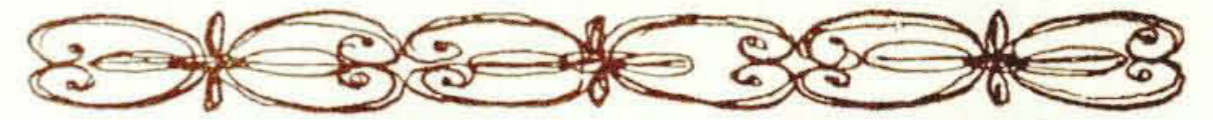
これらは、きたる10月から予定されているスピードアップにそなえて十分な機能を発揮できるよう、現在車の実績を参考に不具合箇所を全部改良してある。

東京-新大阪間には66箇所のトンネルがあるので、トンネル内での気圧差による不快感や、便所、連結部のドア開閉時の不具合を解消するなど気密構造の改良に重点をおき、気密方式は便所、連結用ほろを含み、列車全体を気密構造にしてある。

このほか床下の電気機器箱をアルミ製から鋼鉄製に変え、完全密閉として雪害から守り、停電時に備えて無線用電源(静止形インバータ)を特設するなど、不良箇所とみられるところはビス1本にいたるまで改良した。



第3図 日本国有鉄道納東海道新幹線用交流電車



おもな仕様

軌間	1,435 mm
車体寸法 長さ(連結面間)25,000 mm × 幅 3,380 mm × 高さ 3,975 mm	
電車性能(2両1単位)		
連続定格出力	1,480 kW
連続定格速度	167 km/h
最高許容速度	250 km/h
電気方式		
単相交流	60 c/s, 25 kV
台車方式	空気バネ付ディスクブレーキ付2軸ボギー

マラヤ鉄道納 ディーゼル動車完成

マレーシアのマラヤ鉄道へ納入するディーゼル動車1両が、日立製作所においてこのほど完成した。

これはコロombo計画にもとづき、日本政府がマレーシア政府へ寄贈するために製作した車両で、日本製品のPRという意味から、小さい部品にいたるまですべて国産品が使用されている。

このディーゼル動車の車体は普通鋼板の全溶接構造で、外板はシルバー塗装を施した2・3等混合車である。

マレーシアは雨が多いため、強いスコールに対しても差しつかえない構造としてあり、各種試験も十分行なっている。

客室は2等と3等に分ち、客室の内張りはアルミヒッター、天井はハイボードを用い、2等室はブルー色のアルミヒッター、3等室はグリーン色に色分けしてある。

腰掛は2等が転換シート、3等が固定式とし、出入台は片側2箇所あり、内開戸および貫通路を設けてある。

外部に面した窓ガラスはすべて熱線吸収ガラスを用い、南方の暑さに対する考慮をはらっている。

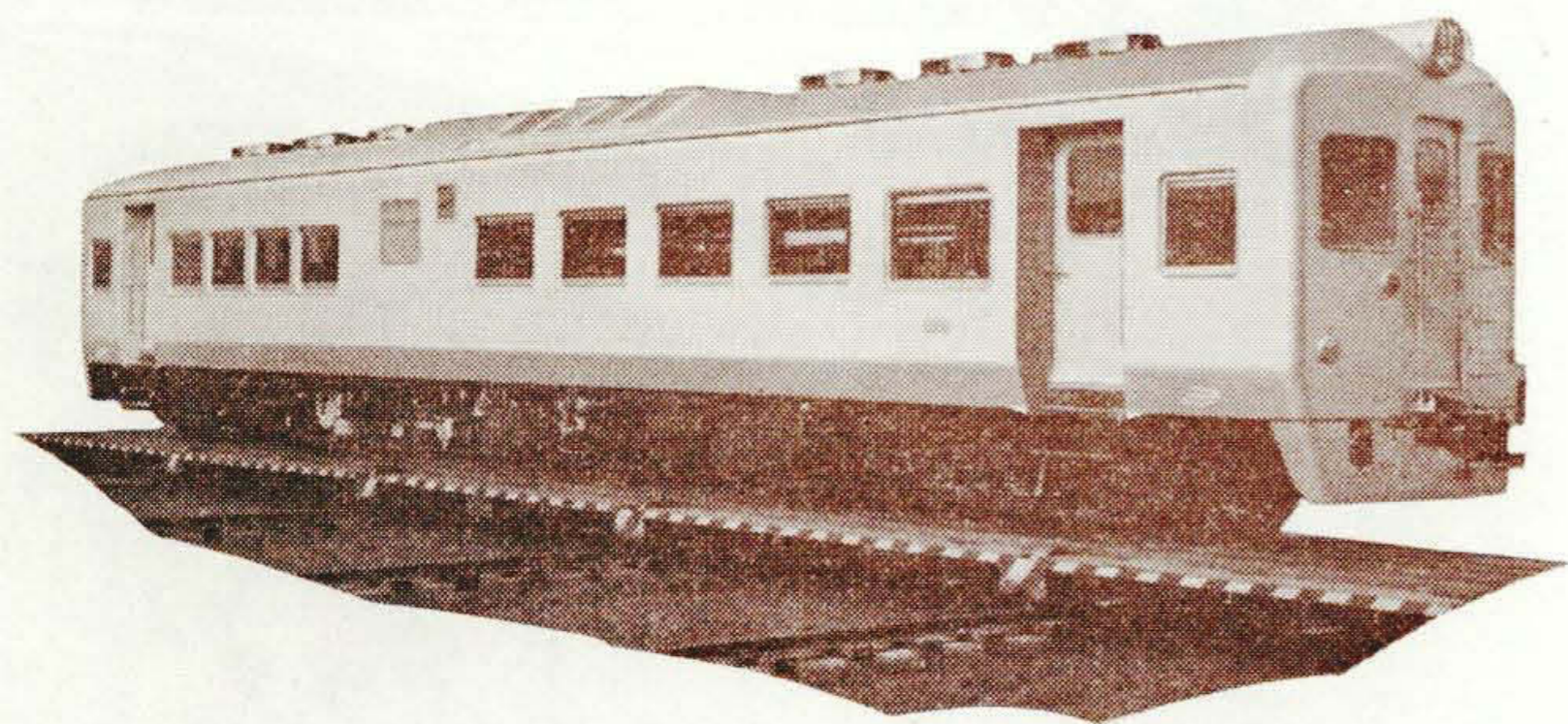
動力装置は2セット装備し、日本国有鉄道のディーゼル動車と同じ要領であるが、放熱装置は現地の状況を考慮して屋根上に設け、オイルモーター駆動によるファン強制冷却式としてある。

車掌室を設け、運転台は車両の両端に備えてあり、マラヤ鉄道の既存付随車をけん引できるように設計してある。

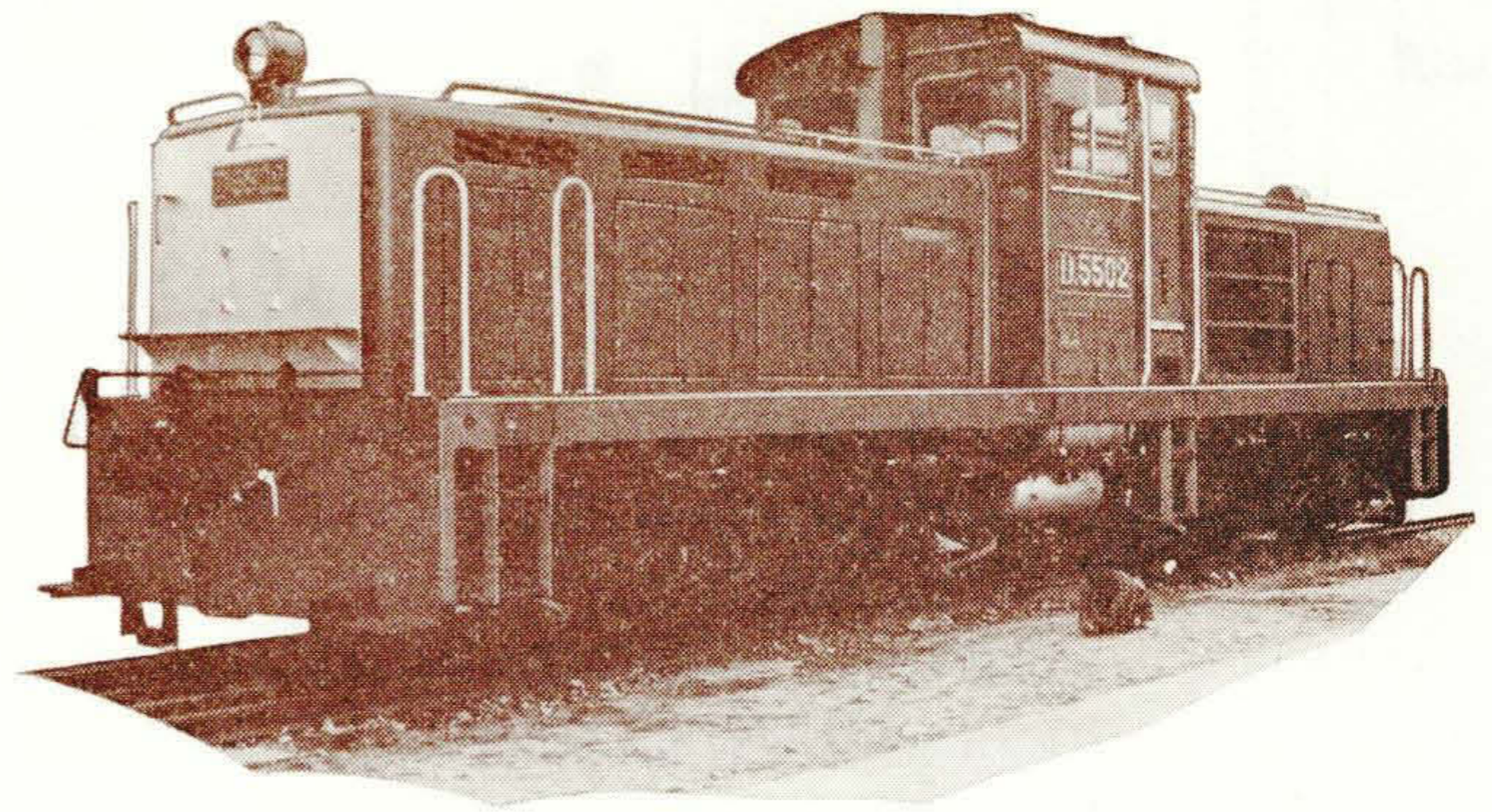
このほかにマラヤ鉄道から受注した10両のディーゼル動車は近く製作に着手する。

おもな仕様

軌間	1,000 mm
車体寸法 長さ..... 19,355 mm	
 幅..... 2,700 mm	
 高さ..... 3,740 mm	
自重	34 t
定員 2等..... 12人	
 3等..... 44人	
最高速度	97 km/h (60 マイル/h)
エンジン	ニイガタ DMH17H 180ps/1,500 rpm × 2台
コンバータ	ニイガタ DBG 115 × 2台



第4図 マラヤ鉄道納 ディーゼル動車

第5図 八幡製鐵株式会社納
55 t 550 ps 液体式ディーゼル機関車

八幡製鐵株式会社納

日立 55 t 500 ps 液体式ディーゼル機関車完成

日立製作所では製作中のHG-55BB形液体式ディーゼル機関車6両を、このほど八幡製鐵株式会社堺製鉄所へ納入した。

この機関車は製鉄所用として使いやすいように設計してあり、混銑車、注入台車けん引に当たっては、連結器の解放を運転室内から行なうことができるようになっている。

窓ガラスは耐熱ガラスとし、機関車の前後には遮熱板を設けて製鉄所作業に適したものとしてあり、作業を容易にするため助手席に調整可能な反射鏡を取り付けてある。

さらに、作業の遠隔指示ができるようにワイヤレスマイクを設け機動性をはかるとともに、現場作業の連絡用に拡声器を装備してある。

この機関車は1機関積載としては大形に属するもので、放熱装置ファン駆動には自動制御式静油圧駆動により行なっている。この方式は、今までに多数使用実績のある日立オイルモーターおよびヒタスタットを使用した油量制御弁を装備している。

台車は、日立独自の揺れまくら式両抱きブレーキ付2軸ボギー車(特許出願中)で構造が簡単であるため保守点検が便利であり、乗心地の面でもきわめてすぐれた性能をもっている。

タイヤフランジ摩耗防止にはフランジ塗油機を使用している。

運転室内には温水を利用したカーヒータならびに扇風機を装備して居住性をよくしてある。

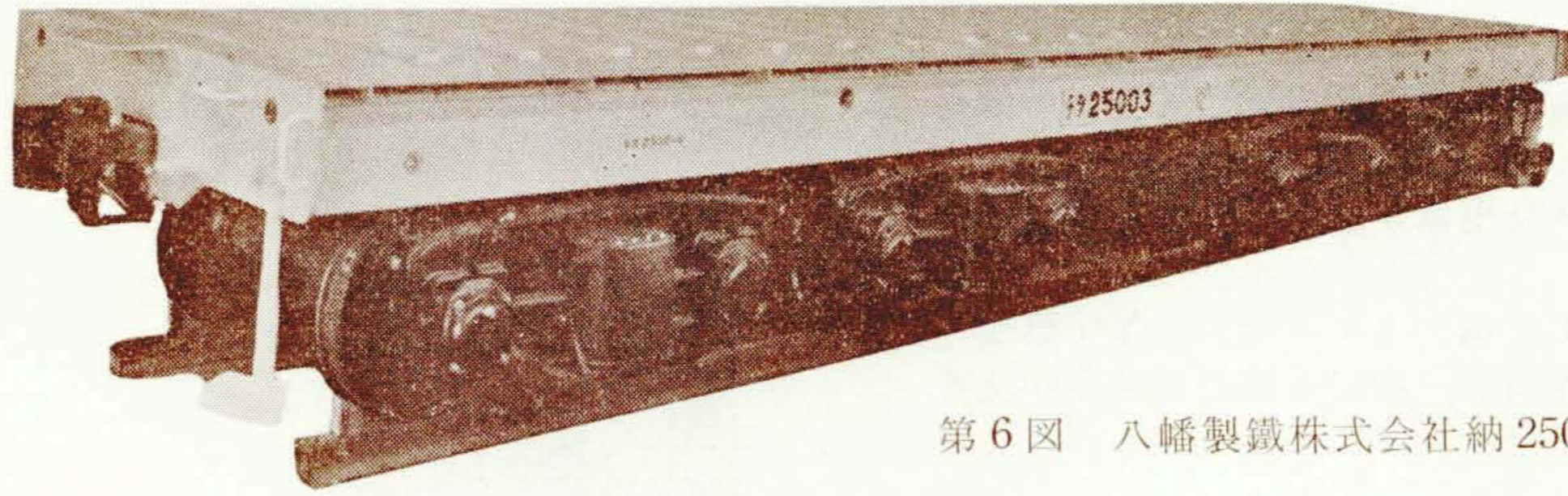
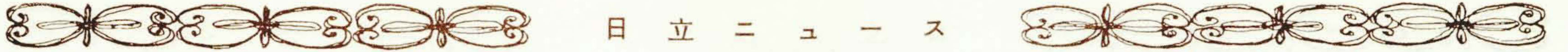
おもな仕様

形式	HG-55BB 中央運転室形2軸ボギーギヤ駆動式
軌間	1,435 mm
運転整備重量	55 t
車体寸法 長さ(連結面間)..... 11,650 mm	
 幅..... 2,700 mm	
 高さ..... 3,700 mm	
ディーゼル機関	DMF-31SB (1台)
	標準出力 500 ps/1,500 rpm
液体変速機	ニイガタ CB 138 (1台)
最高速度	22.6 km/h

八幡製鐵株式会社納

わが国最大の250 t積注入台車続々完成

八幡製鐵株式会社堺製鉄所における銑鋼一貫体制の付帯設備として、さきに同社から受注した15両の250 t積注入台車が目下日立製



第6図 八幡製鉄株式会社納 250 t 積鋼塊台車

作所であいついで完成しつつある。

この台車は、わが国最大の積載能力を有し、台わくは全溶接構造とし、軌間も 1,435 mm を採用している。

台車は 2 軸ボギー 4 台車方式、台わくは鋼板を使用しており、鋼塊や定盤など 30 t のものが 300 mm の高さから落下してもその衝撃に十分耐える強固な構造になっている。

おもな仕様

軌間	1,435 mm
積載荷重	250 t (280 t まで積載可能)
自重	57.5 t
車体寸法	長さ 13,300×幅 2,400×高さ 1,420 mm
台車形式	2 軸ボギーまくらパネ方式 (4 台車)
車輪径	860 mm
固定軸距離	1,450 mm
台わく心皿中心距離	6,700 mm
ボギー中心間距離	2,550 mm
使用条件		
運転速度	最高約 22 km/h, 常用約 15 km/h
運転距離	約 10 km/日
軌条最小曲線半径	60 m

インドネシア・サリナーデパート納
エレベータ、エスカレータ現地向発送

このほど日立製作所は、インドネシア共和国首都ジャカルタにある同国最大規模の国営“サリナーデパート”納、エレベータ 6 台、エスカレータ 14 台を完成し、現地に向け発送した。

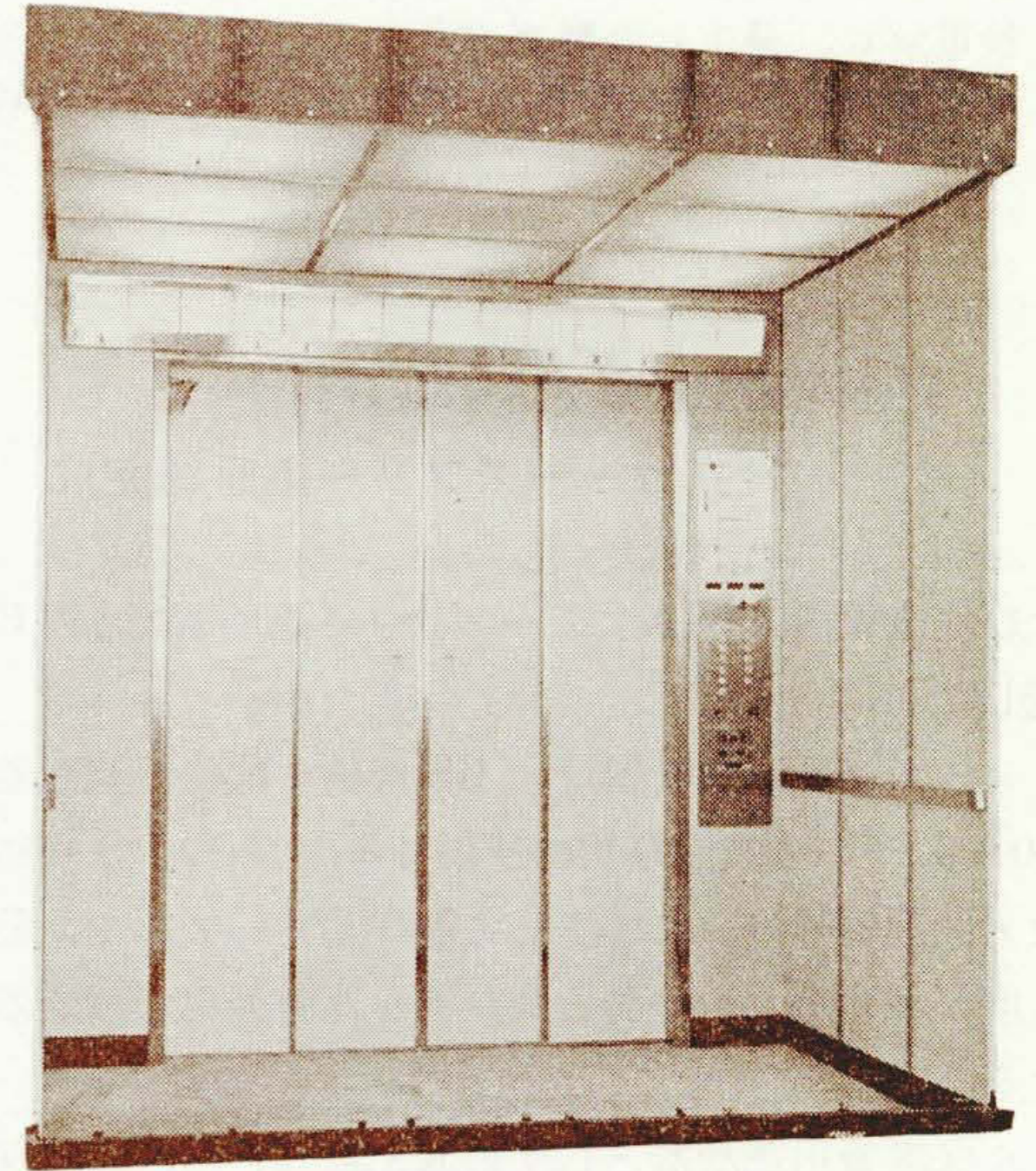
エレベータは直流ギャレス客用 4 台と直流ギャード人荷用 2 台で、客用 4 台の特長としては利用者の多い昼間は運転手付きのオーダー シグナル コントロールでサービスし、夜間など閑散時には 4 台中 2 台だけをセミジュプレックス コレクティブコントロールで、経済的に自動運転できるように設計されている。

また、14 台のエスカレータはすべて透明式で、デパートの中央 1 階から 8 階まで交差乗継ぎ形配列をとっている。特に 2 階から 3 階への 2 台は階高 6,460 mm の長大形であるが、中間支持ばりの不要な特殊設計を採用したので全透明式エスカレータの豪華さを十分発揮している。

なお同国でエスカレータを設置するのは今回が初めてである。

おもな仕様

(1) 客用エレベータ		
積載荷重	1,600 kg
速度	150 m/min
制御方式	DCVV オーダーシグナルコントロール ウィズ セミジュプレックス コレクティブコントロール
階床数	13 (B, 1~11, 13)
(2) 人荷用エレベータ		
積載荷重	1,600 kg
速度	90 m/min



第7図 インドネシア・サリナーデパート納エレベータ (内観)

制御方式	DCVV ジュプレックス コレクティブコントロール
階床数	14 (B, 1~13)
(3) エスカレータ		
形式および台数	1200 T-NN 2 台
		800 T-NN 2 台
		1200 T-N 1 台
		800 T-N 9 台
速度	27 m/min
設置階	1~8 階
配列方法	交差乗継ぎ形配列

東北電力株式会社新潟火力発電所納
国産初の溶存酸素計を完成

このたび日立製作所では国産初の溶存酸素計を完成、東北電力株式会社新潟火力発電所に 2 台納入した。

最近、火力用ボイラの出力と圧力が高まるにつれて、ボイラ用水中に微量の酸素ガスが溶け込んでいるとボイラに害を及ぼすので、この酸素量をやかましく押えるようになってきたが、このたび完成した AE-702 形溶存酸素計は、このための監視計器で溶存酸素計としてガルバニ電池(酸素ガス電池)を検出器とした国内最初の製品である。

従来の熱伝導式のもの、原理上溶け込んでいるすべてのガスを総括的に測定していたので、溶存酸素を消費減少させるヒドラジンという薬液を注入すると、溶存ガスの成分比が変わって正しい酸素量を測定できなくなる欠点があった。ガルバニ電池は、本質的に酸素のみに反応して測定するものであるから、このような欠点が除かれると同時に高感度となっている。



おもな特長

- (1) 流通形構造のガルバニ電池検出器の採用により速応性が良いと同時に、フルスケール 20 ppb の高感度を有する。
- (2) 多数羽根かくはん形のガス抽出器を使用し、溶存酸素ガスを効率よく抽出できる。
- (3) ガス通路の切換弁には水銀液面を上下させて、Y字形管の分岐点を開閉する方式を採用し、測定と較正の切り換えを外部より容易に遠隔操作できるようにしてガスリークをおさえている。
- (4) 感度較正用電極をそなえ、被検水に既知の電流を流して直接電解し、発生した酸素ガスを再溶解させることにより、その分だけ溶存酸素量を増加させて感度の絶対較正ができる。

完全電磁式 (形式 KS 30-TF)

日立ヒューズフリー遮断器完成

このたび完全電磁式 30A ヒューズフリー遮断器 (略称 FFB) を完成、発売した。

このヒューズフリー遮断器は、JIS 規格「配線用遮断器」にもとづいて 30A 以下の分岐回路用に使用でき、さらに JIS 規格「誘導電動機ジカ入開閉器通則」に準拠して製作しているので、最近、特に使用ひん度が多くなりつつあるモートル保護兼用の遮断器としても使用できる。

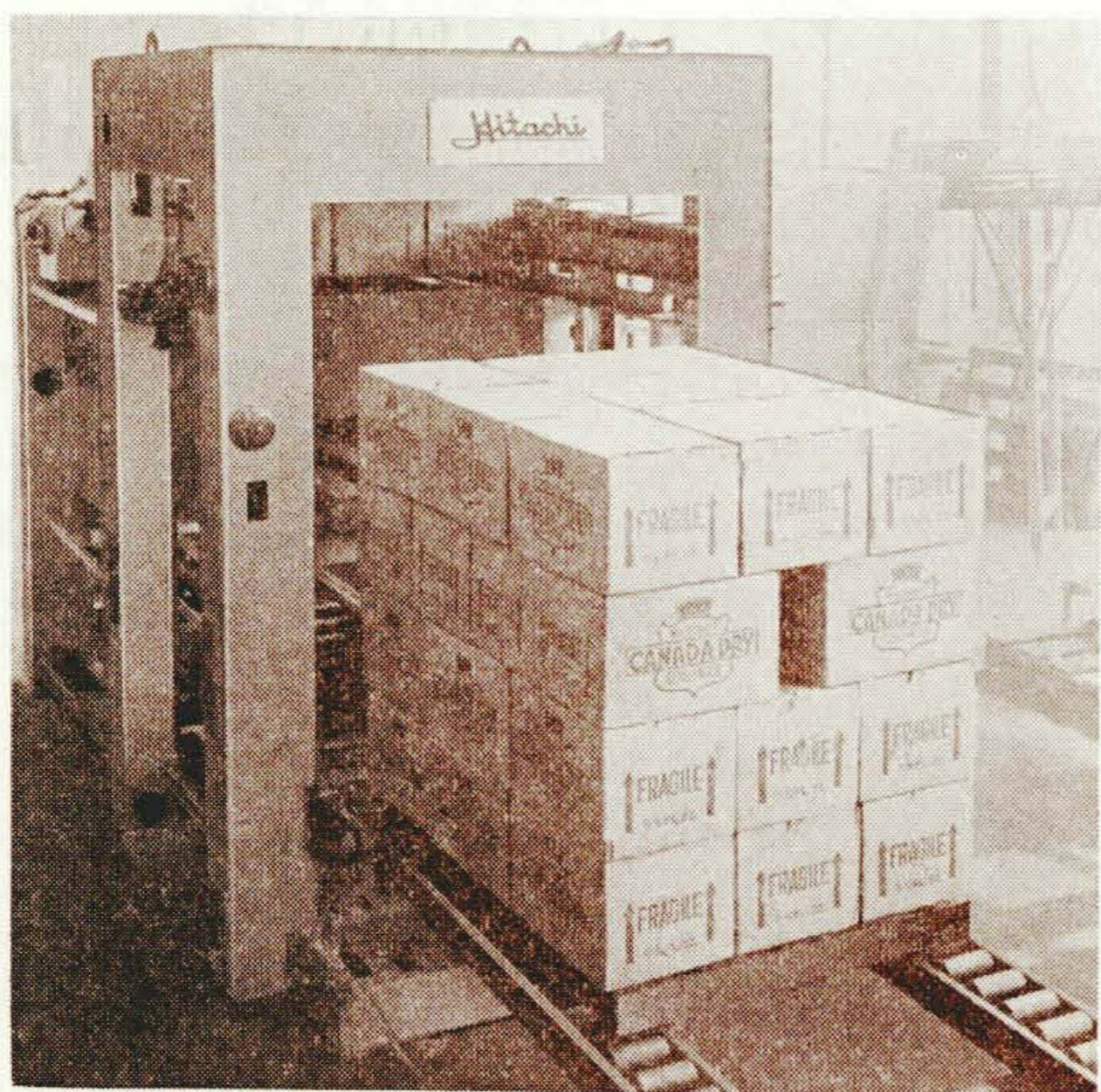
モートル保護兼用遮断器としての KS 30-TF 形は、特殊な限時形電磁器の採用によって汎用モートルの運転中の過負荷、単相運転の保護を行なうと同時に、短絡事故に対してもきわめて効果的に保護することができる。

おもな特長

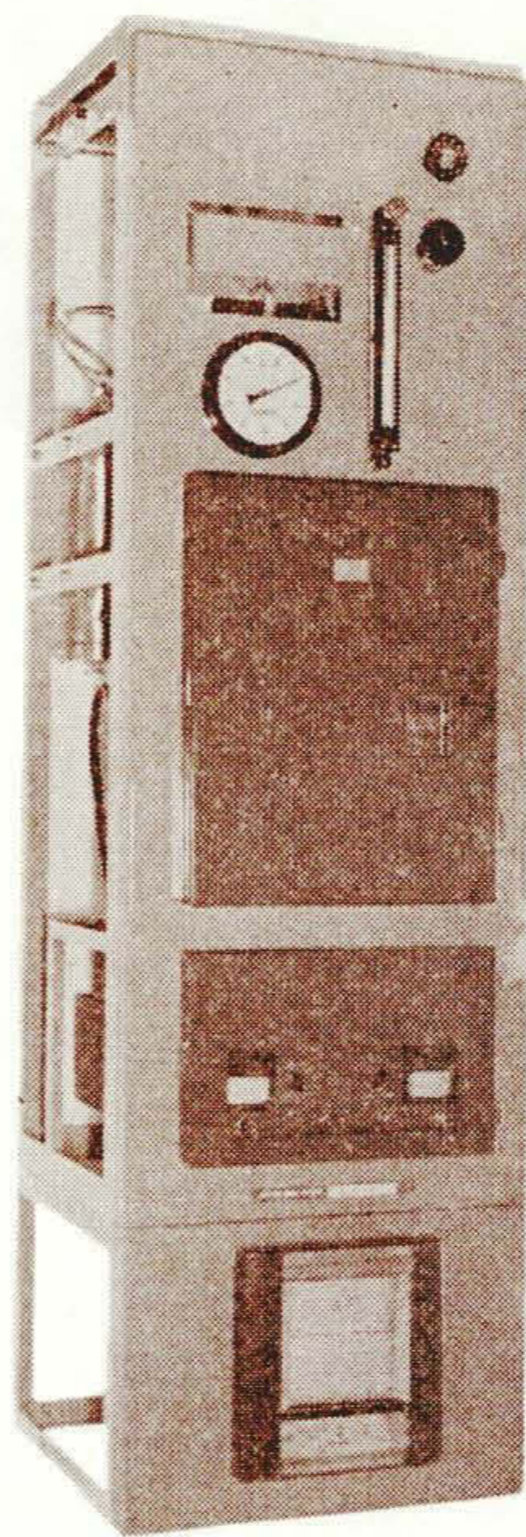
- (1) AC 460V, DC 125V まで使用できる。
- (2) モートル保護兼用のものは適用範囲が広い。
- (3) 分岐回路専用、モートル保護兼用とも使用できる。
- (4) 小形であるため取付面積が小さくてすむ。
- (5) いずれの極に過電流が流れても全極同時に遮断できる共通引きはずし機構。
- (6) 開閉速度が速く接点も消弧装置も強力なものをを用いているので寿命が長い。
- (7) トリップ表示が容易である。

おもな仕様

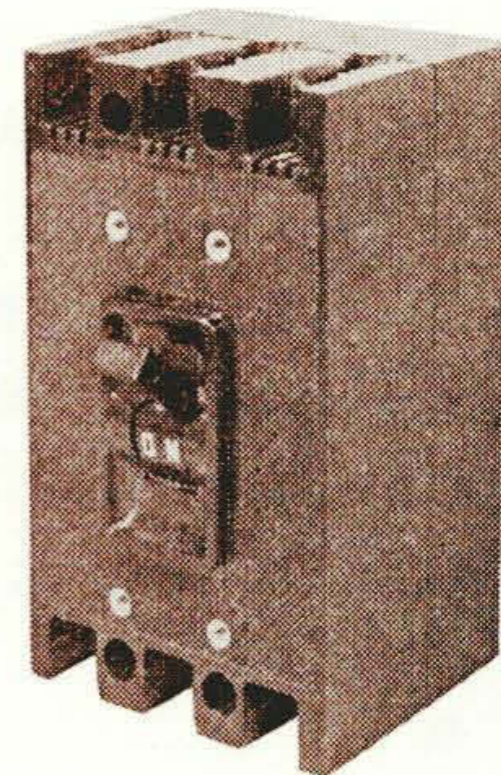
定格電圧.....AC 460V, DC 125V フレーム容量 30A
極数および素子.....三極三素子, 最大適用電動機容量 AC 460V,
15 kW, AC 200V 7.4 W



第 10 図 サッポロビール株式会社納日立万能形パレットローダ



第 8 図 東北電力株式会社新潟火力発電所納溶存酸素計



第 9 図 KS 30-TF 形ヒューズフリー遮断器

しゃ断容量..... { AC 220V 2,500A, DC 125V 1,500A
 { AC 460V 2,500A

寿命.....電氣的 1 万回以上
モートル保護用しゃ断器は、適用電動機によって標準電流整定値があり、その容量は 0.2, 0.4, 0.75, 1.5, 2.2, 3.7, 5.5, 7.5 kW まであります。

なお、このヒューズフリーしゃ断器には内部付属装置として補助開閉器、外部付属装置として裏面接続スタッド、プラグイン接続器、フラッシュプレート機械的インターロック、外部操作装置などがある。

サッポロビール株式会社納

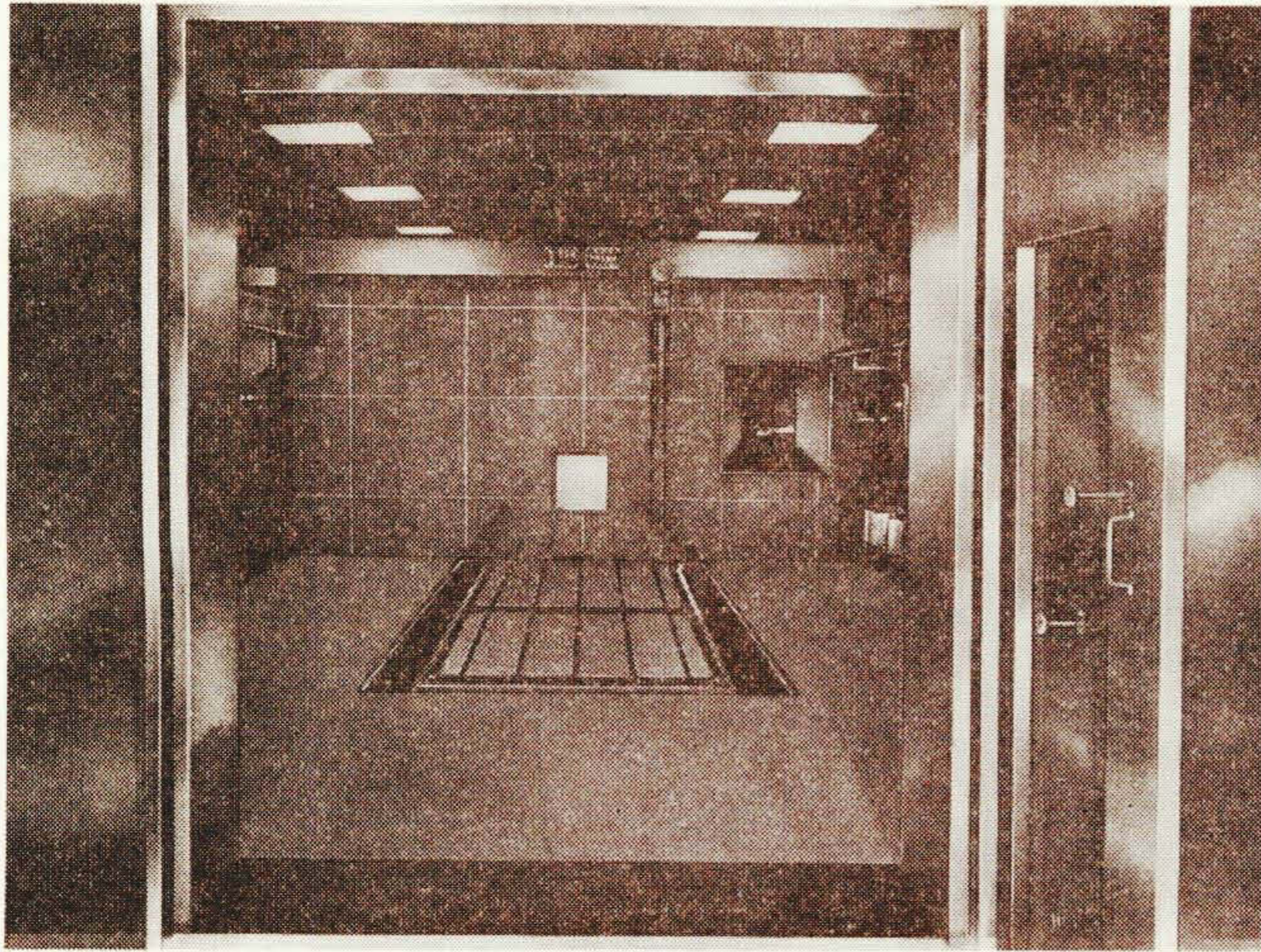
日立万能形パレットローダ完成

日立製作所では、先般高速形の全自動パレットローダを開発し、各社に納入、現在好調裏に稼動しているが、このほどパレット積み配列を換えることができる万能形パレットローダを製作し、サッポロビール株式会社に納入した。本機はコンベヤラインによって送られてくる清涼飲料製品の箱 (木箱, ダンボール箱, 透箱など 9 種類の箱) を 3 種類のパターンに、毎分 30 箱の速さでパレット上に積み付ける作業を全自動で行なうもので、さきに製作したパレットローダでは 1 段 2 個 3 列または 3 個 2 列の単一パターンであったが、これに方向変換装置を設け、インターロックパターン (組合せ積形) を取り扱えるようにし、さらに積付けの際箱と箱の間にすきまがあげられる形式のものである。なお、インターロックパターンは箱寸法が小さく高積みするとき、不安定となる場合に使用されるもので、段により配列を換え、箱を入り組ませ、パレット全体としての安定性を高めるために行なうものである。

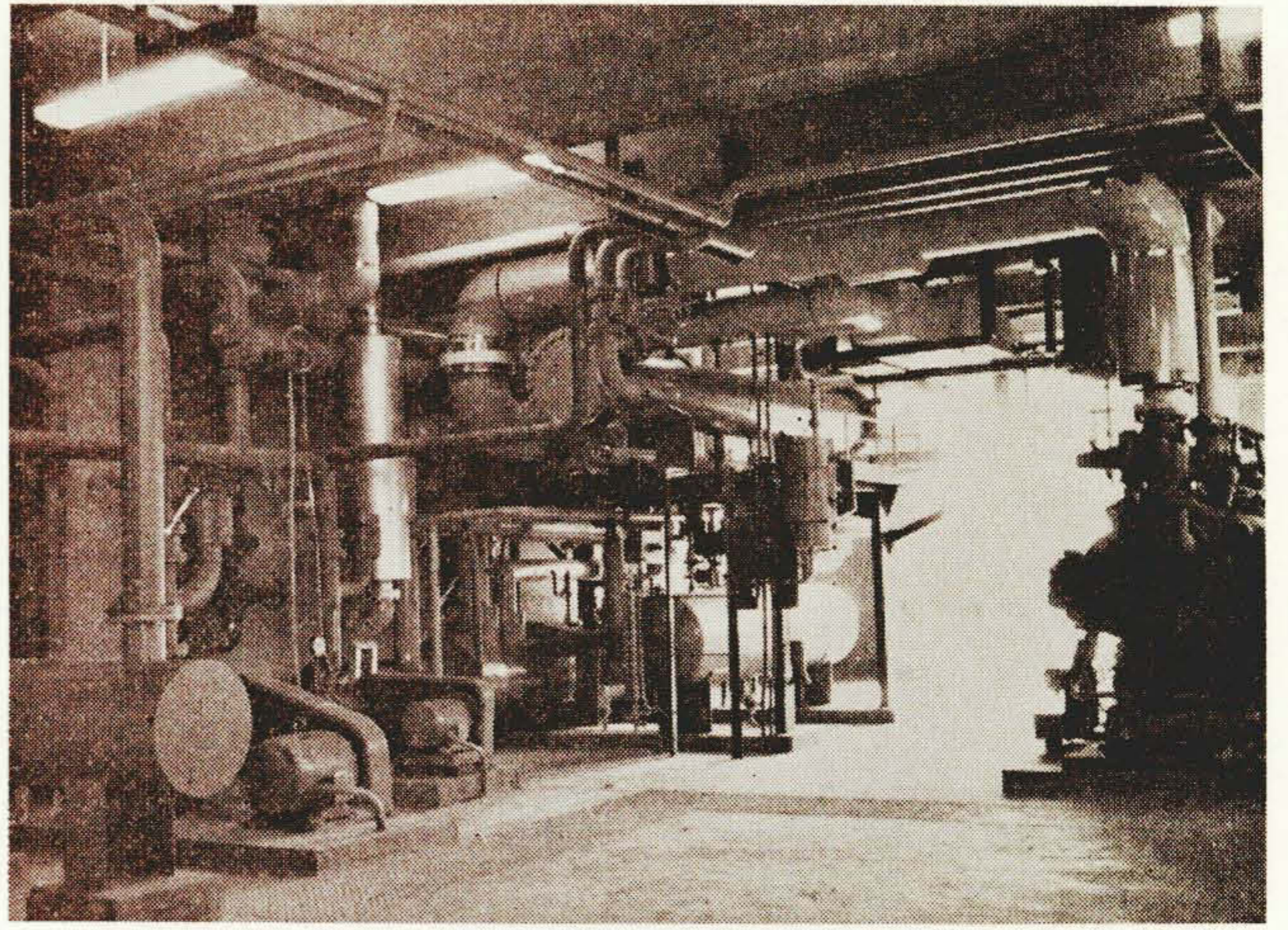
万能形パレットローダは今後飲料食品、薬品、洗剤などの工場などに大いに活躍が期待されている。

エンジン実験用環境試験装置完成

このほど日立製作所では、エンジン実験用環境試験装置を完成した。



第 11 図 環境装置試験槽



第 12 図 環境装置機械室

本装置は試験槽、冷却装置、減増湿装置、空気調和器からなり、いろいろな温湿度環境条件下における自動車エンジンの各種試験を行なうもので、この種の装置としては規模において最大クラスのものである。

おもな特長

- (1) 冷却装置は低温を得るために、特に R-22 を使用した 2 段圧縮方式を採用し、槽内温度を常温から -30℃ まで、8.5 時間以内に冷却する能力を有する。また低温(-30℃)から高温(+30℃)までの任意温度を ±2℃ の精度に制御することができる。
- (2) 試験槽と空気調和室は一体の鉄筋コンクリート構造で、試験槽上部(2階)に調和器室を設置し、据付面積を少なくしている。試験槽は主室と副室からなり、主室と副室間および副室入口に大きな防熱の観音扉を設けて、エンジンを付けた車体が自由に乗入して、試験できるようになっている。そのほか観測窓、連絡装置、サービスホール、クレーンなどがもうけてあり各種試験に便なるよう配慮されている。
- (3) 冷却コイルの霜付による冷却能力低下を防ぐため、吸着式の脱湿装置を取り付けている。
- (4) エンジン負荷の変動および槽温変化にかかわらず、常に槽内圧力を大気圧状態に保持するよう圧力制御装置が設けてある。
- (5) 万一の火災にそなえて、CO₂ 自動消火装置が設備されている。

試験槽のおもな仕様

	主 室	副 室
内 法 寸 法	8 × 5 × 2.5 m	2 × 5 × 3.7 m
温 度 範 囲	+30℃ ~ -30℃	—
温 度 制 御 精 度	同上にて ±2℃	—
冷 却 時 間	常温から -30℃ まで 8.5 時間以内	—
高 度 (圧 力)	大 気 圧	—
収 容 人 員	3 人(副室とも)	—
エンジン発熱量	20 Ps 相当	—

各装置の主要機器内訳

装置名称	内 訳
冷却装置	(1) 冷 媒 R-22
	(2) 冷 凍 機
	低 圧 側 HMC 170 F8R-BW 1台
	高 圧 側 HMC 115 F3R-BW 2台
減湿装置	(1) 空気脱湿装置 AD-2500 1台
	(2) 再生ルーツプロワ RSA-RHC 1台
	(3) 新鮮空気用ルーツプロワ RSA-RHC 1台
空気調和器	(1) 送 風 機 9P0S-RH 1台
	(2) 空気冷却器 R-2Z用冷却コイル(プレートフィン形) 1組
	(3) 空気加熱器 電気ヒータ(プレートフィン形) 1組

画期的なクレーン専用機

F 65 トラッククレーンを完成

日立製作所では、トラッククレーンのシリーズ充実化を図るため、従来の F210 (つり上荷重 54.5 t), F110 (つり上荷重 27.5 t), F34 (つり上荷重 10.5 t) の各トラッククレーンに加えて、このほど F65 (つり上荷重 18.2 t) を完成した。

F65 トラッククレーンは、ボール式旋回輪、一方向性フリクション式ブームふ仰クラッチ、高低速二段、ミッション付クレーン原動機、三点支持ガイドローラ付アウトリガー、ピンジョイントブームなどの新機構をとり入れた画期的なクレーン専用機である。

本機は、クレーン容量が大きいにもかかわらず、道路運送車両法に合致し、公道上を自由に走行することができる。

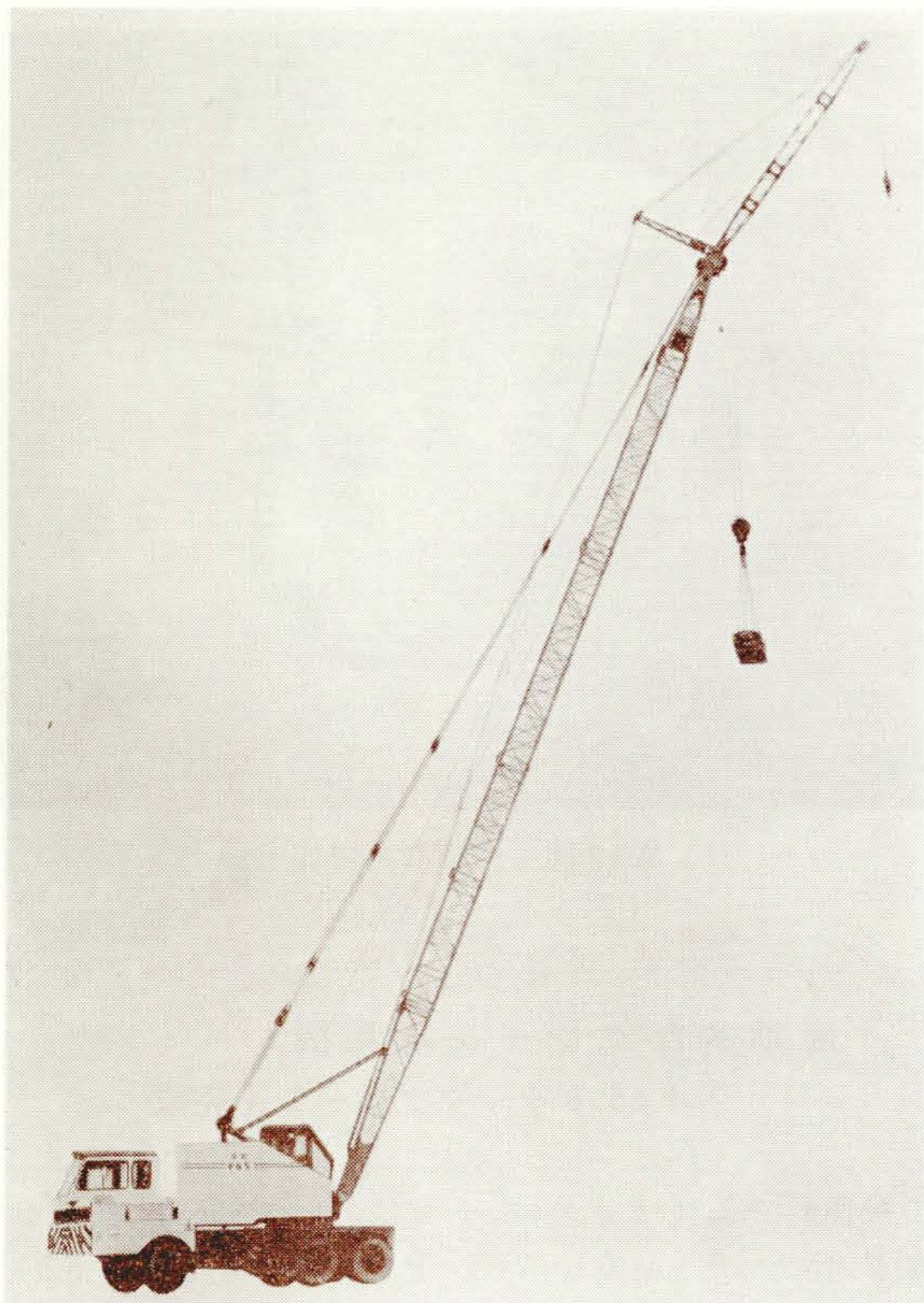
おもな特長

- (1) 径路申請不要の最大容量のトラッククレーン
- (2) すぐれたクレーン性能
 - ① 動力巻下げは最大荷重まで安全確実
 - ② 新方式のブーム降し装置によるすぐれたクレーン性能
 - ③ 高荷重用複列ボール式旋回輪によるすぐれた旋回性能
 - ④ 高低速二段ミッションによる適正な作業速度の選択
- (3) 簡便な保守、調整、すぐれた耐久力および機動性
 - ① ウインチの歯車類はすべて油槽入
 - ② 調整のいらない旋回輪
 - ③ 独特の三点支持ガイドローラによる軽快なアウトリガーの出し入れ
 - ④ 分解組立が容易なピンジョイントブーム
- (4) 完備した安全装置
- (5) アタッチメント

クラムシエル、ドラグライン、石炭バケット付クレーン、パイロドライブとしても使用できる。

おもな仕様

クレーン能力..... 巻上荷重 18.2 t × 作業半径 3.7 m
 ブーム長さ
 標準ブーム..... 8 m
 最長ブーム..... 29 m
 ジブ..... 4.5 m, 6 m, 9 m
 最長ブーム+ジブ..... 26 m + 9 m
 重 量
 全 装 備 重 量 (標準ブーム時)..... 19.8 t
 キャリヤ重量..... 9.4 t
 作 業 速 度
 主フック巻上ロープ速度..... 高速 55 m/min, 低速 34 m/min
 主フック巻下ロープ速度..... 高速 33 m/min, 低速 20 m/min



第13図 F65トラッククレーン

ジブフック巻上ロープ速度.....高速 37 m/min, 低速 23 m/min
 ブーム巻下ロープ速度.....高速 29 m/min, 低速 18 m/min
 旋 回.....高速 3.6 rpm, 低速 2.2 rpm

走行性能

走行速度.....51 km/h
 最高速度 (走行駆動形式).....6×4
 (登坂能力 sinθ).....0.32
 (最小回転半径).....8.5 m

走行姿勢.....全長 11.9×全高 3.47×全幅 2.485 m
 原 動 機 (ディーゼルエンジン)

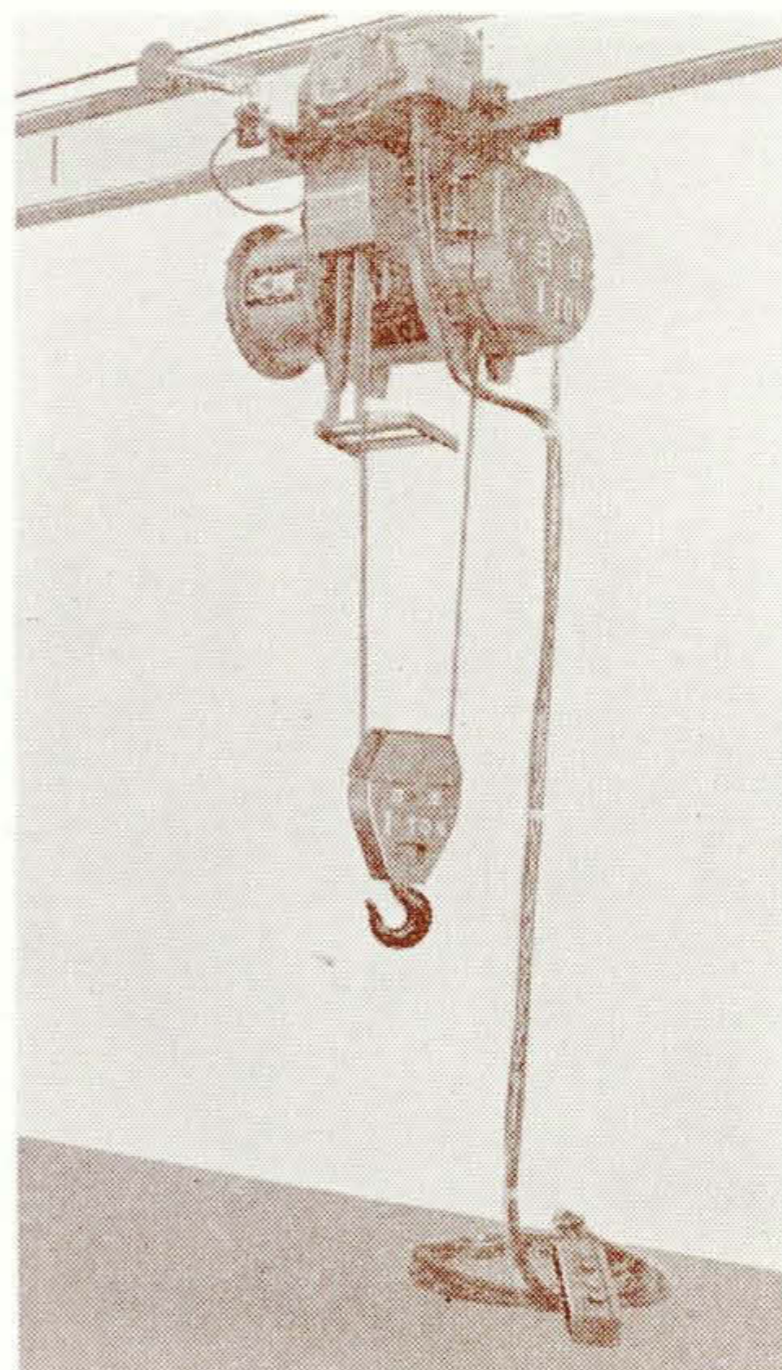
クレーン用.....80 PS/1,800 rpm
 キャリヤ用.....165 PS/2,200 rpm

画期的な日立N形ホイスト完成

このほど日立製作所で完成したN形ホイストは、数多くの新機構を採用し小形軽量化して取扱、保守点検などを著しく容易にした。しかも巻上速度は従来のホイストより1割ほどスピードアップし、高効率とし今後のホイストの方向を示すものとして業界の注目が予想される。

おもな特長

- (1) コーンモートル、コーンブレーキの採用によりインチング特性が向上した。
- (2) 減速ギヤをドラム内に収納したためコンパクトになった。
- (3) 三重ブレーキ (コーンブレーキ、自己制動装置、非常時のみに働く安全制動装置) の採用により安全性を増した。
- (4) 走行車輪はフランジをとり、片側駆動にすることにより車輪の摩耗が少なくなり、最小屈曲径もきわめて小さくなった。
- (5) 全面的にころがり軸受けの採用によりロスが少なくなり経済的になった。
- (6) その他巻上二重リミットスイッチ機構、特殊構成のワイヤーロープ、カバー付のロードブロックを採用している。



第14図 日立N形ホイスト

発売機種は1 tおよび2 t低揚程、高揚程普通形ホイスト押ボタン操作ならびに同機種用手押、鎖動、電動トロリ。

新形電気かんな PFh 4 形発売

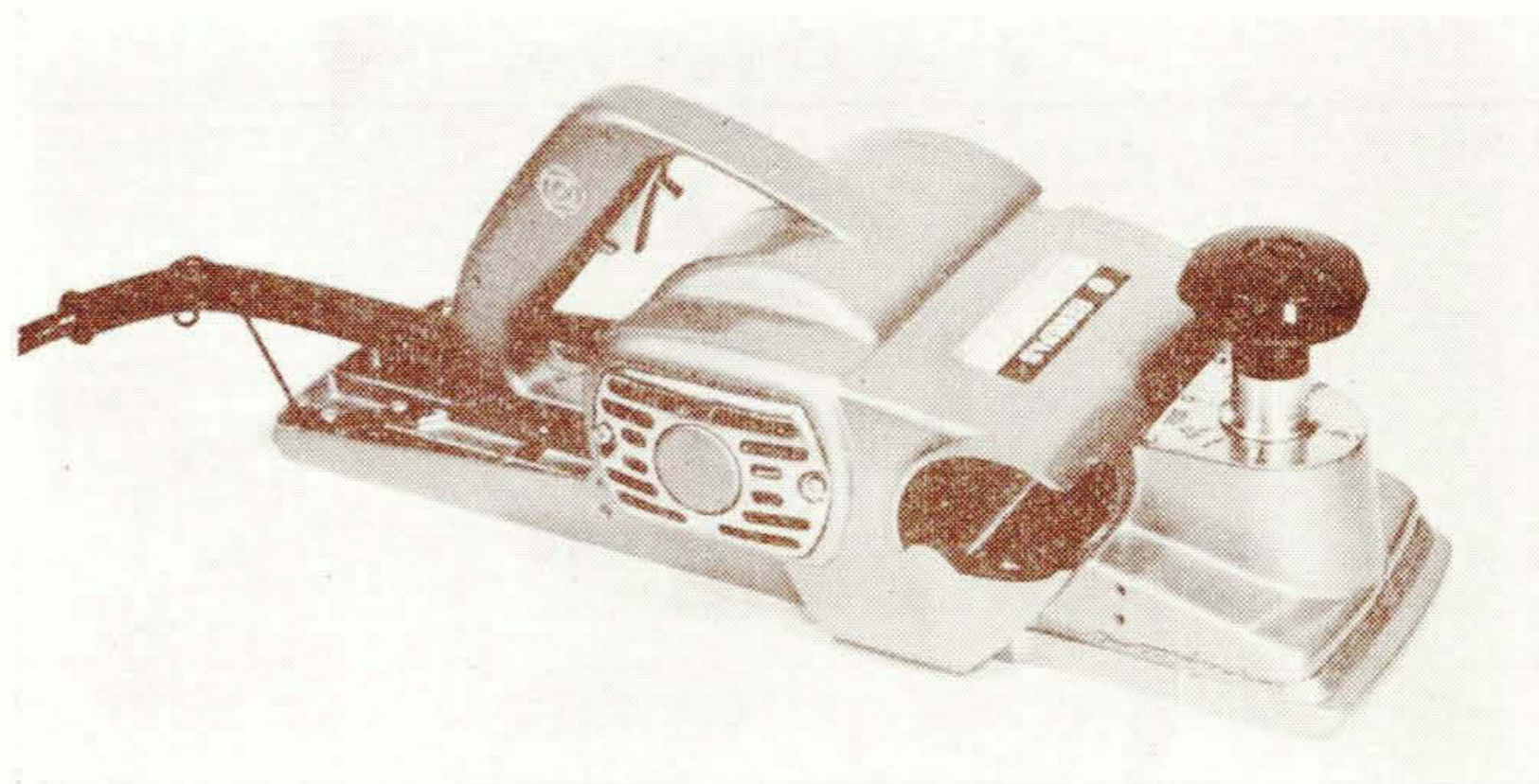
このほど日立製作所は、各種の特長をもち込んだ新形電気かんな PFh 4 形を発売した。

おもな特長

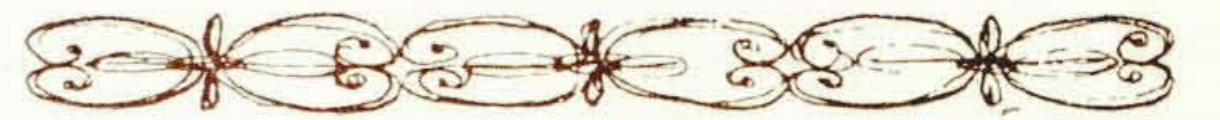
- (1) メタリックブルー塗装でスマートなデザイン
- (2) 切れ味が良い
- (3) 鉄製裏刃付で、きれいな仕上がり
- (4) 7.7 kg と軽くなっている
- (5) 136 mm (4寸5分) の広い刃幅
- (6) 持ち運びが楽で便利なバッグ付
- (7) 効果の大きい雑音防止器内蔵
- (8) 能率よく使える案内板付

おもな仕様

切 削 幅.....136 mm (4寸5分)
 最大切込み深さ.....3 mm
 モートルの種類.....保護単相直巻整流子電動機
 ス イ ッ チ.....ストップ付トリックスイッチ
 電 源.....単相交流 (50/60 c/s) 100V 用
 全 負 荷 電 流.....8 A (100V 用)
 出 力.....約 400 W
 無 負 荷 回 転 数.....14,000 rpm
 全 負 荷 回 転 数.....12,000 rpm
 重 量.....7.7 kg (裸, コード除く), 15.5 kg (荷造り)
 コ ー ド.....本体 5 m + つなぎコード 10 m (アースクリップ, プラグ, コネクター付)



第15図 PFh 4 形新形電気カンナ



標準付属品

バ ッ グ	1 個	ドライバ(十字穴用)	1 個
つ な ぎ コ ー ド	10m	ボ ッ ク ス ス パ ナ	1 個
予 備 刃	2 枚	刃 高 調 整 定 規	1 個
案 内 板	1 組	水 ト イ シ	1 個
刃 と ぎ 保 持 具	1 個	予 備 カ ー ボ ン プ ラ ン	2 個

なお、特殊付属品として刃とぎグラインダPFh4G形、および定置台セットを同時に発売した。特に定置台セットには安全カバーが含まれており、定置式として使用する場合の安全が考慮されている。

日立電気かんな PFh4形 25,500 円

PFh4形用特殊付属品

刃とぎグラインダ(定置台, 安全カバー付)	4,200 円
定置台セット(定置台, 安全カバー)	700 円
特殊アーム組立	450 円

日立電子レンジ DR-121 発売

このたび日立製作所では、1.2 kW の卓上電子レンジ DR-121 を発売した。

DR-121 は、小形の卓上電子レンジで据付面積が小さく、しかもオープン面積は最大という実用的な特長をもっている。

電子レンジはマイクロウェーブが食品や水を含む物体には吸収され、ガラス、紙、陶磁器、金属などには透過または反射する性質を利用した調理器である。

食品に吸収されたマイクロウェーブは、熱エネルギーにかわって食品自体を発熱させて調理するので、栄養分を破壊することなく短時間で均一に加熱調理することができる。

電子レンジを利用すると、調理時間の短縮はもちろん調理能率を向上し、お客の回転率を高め、またあらかじめ調理し、ストックしておくことにより、料理の計画化および標準化ができ、コストダウンをすることができる。そのため、食堂、スタンド、ホテル、旅館、ドライブイン、列車や船舶食堂、寮、病院などに最適な調理器である。

おもな特長

- (1) せまい場所に置けるよう奥行は薄く、オープンは大きく、効率の良い設計のため、場所をとらず調理場をフルに活用できる。
- (2) 電動タイマーを使用し、加熱時間は実際の調理にあわせて3分までは20秒刻みの調整が可能である。
- (3) デザインは店内のディスプレイに、また店頭のアキキャッチャーとして使える豪華でスマートなデザインである。

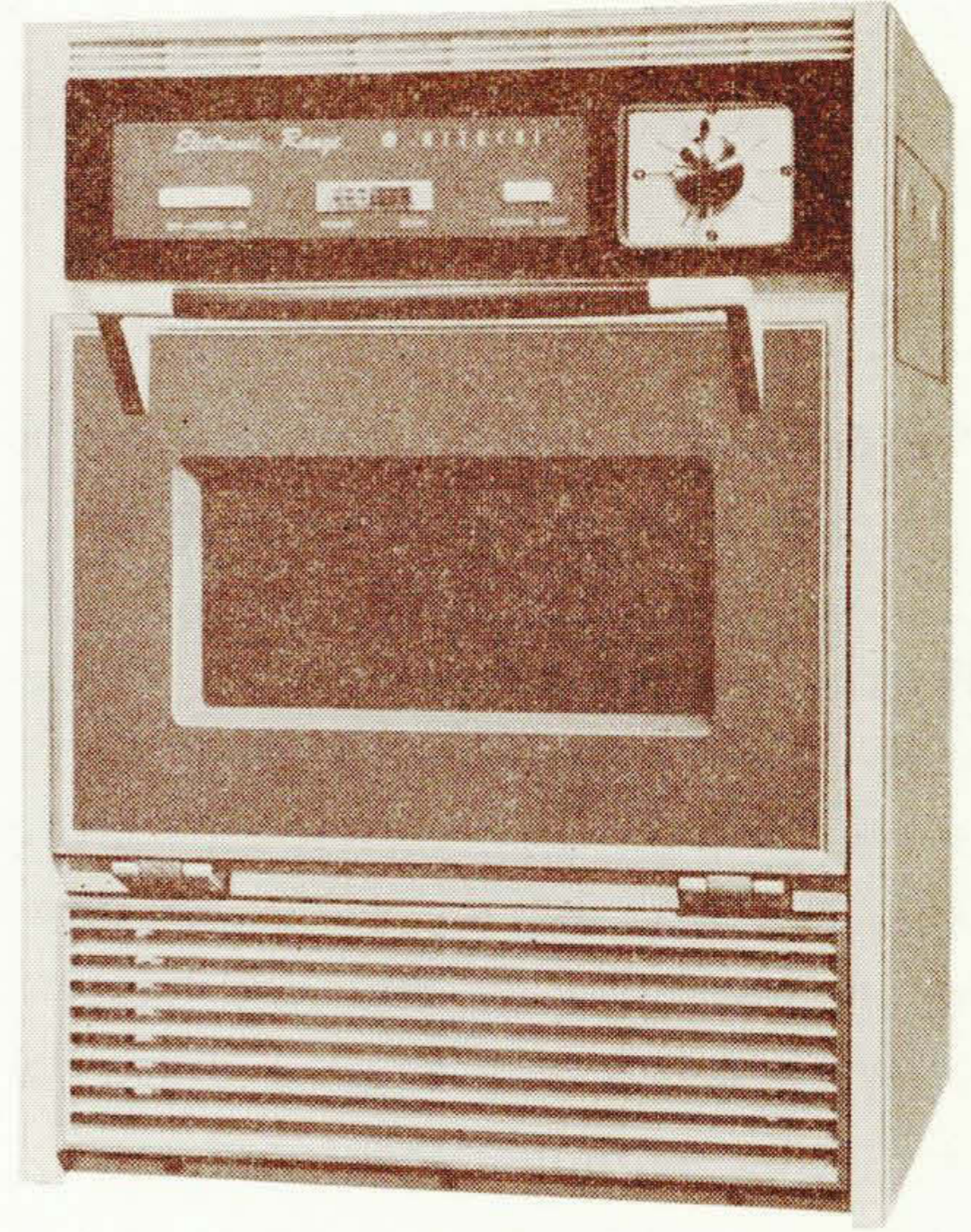
おもな仕様

形 式	DR-121
高周波出力	1.2 kW
電 源	単相3線 200 V, 約 20 A, 50/60 c/s
入 力	2.5 kW (4 kVA)
発振周波数	2,450 ± 50 Mc/s
外形寸法	幅 603 × 奥行 510 × 高さ 820 mm
オープン寸法	幅 465 × 奥行 400 × 高さ 250 mm
重 量	100 kg

19形コンソールデラックステレビ

AFTつき N-30C 発売

画面の大形化、デザインのデラックス化の時流に乗って19形コンソールテレビの伸びはめざましいものがある。今回日立が発売したN-30Cは、好評だったN-1300にAFT(人工頭脳)を加えデザインも木目をふんだんに生かした豪華テレビである。



第16図 “DR-121” 日立電子レンジ

価 格 現金正価 69,800 円 月賦正価 74,900 円

おもな特長

- (1) <ワイド19>コンソールデラックス
 - (2) 美しく豪華な木目ポリエステル塗装
 - (3) 電子頭脳で微調整はテレビまかせ
 - (4) 2年進んだ技術<総合プリント配線>
 - (5) ニュービスタでムラのない鮮やかな画像
 - (6) 2ウェイスピーカシステムのHiFi音
 - (7) 眼が疲れず美しい画像の明視スクリーン
- その他超薄形、トーンコントロール、プレーヤー端子、イヤホン兼録音用端子(イヤホン1個つき)付など。

おもな規格

真 空 球16 球(ブラウン管とも)ほかにダイオード7石
ブ ラ ウ ン 管日立 19 XP 4 (19 形 114 度 偏 向 メ タ ル バ ッ ク)
ス ピ ー カ20 × 15 cm だ 円 ス ピ ー カ 1 個
	5 cm ス ピ ー カ 1 個
音 声 出 力約 2 W
使 用 電 源110V 100V (切 換 タ ッ プ つ き) 50/60 c/s
消 費 電 力約 140 W (オ ー デ ィ オ の と き 約 75 W)
接 続 端 子 プ レ ー ヤ ー 用 × 1, イ ヤ ホ ン ジ ャ ッ ク 兼 録 音 用 × 2, リ モ コ ン (CW-60 R) 取 付 可 能, UHF チ ュ ー ナ ー キ ャ ッ ト (U-40R) 取 付 可 能
キャビネットポリエステル塗装



第17図 AFTつき19形コンソールデラックステレビ “N-30C”

